

令和6年度 近畿圏広域地方計画協議会幹事会（第2回）

議事要旨

日 時：令和6年11月25日（月）14:00～14:55

会 場：大手前合同庁舎1階 共用会議室（Web会議併用）

主な意見

- 関西の将来像とその目標の実現に向けて、関係機関が連携・協力して施策や取組を着実に推進することが重要と考えている。関西内外問わず関係機関が広域で連携して進める取組については、実施主体は誰かということを明確にすることが必要と考える。
- 広域連携プロジェクトはすべて重要であると認識しているが、関西の更なる向上を考えると「暮らしやすさ」「どう稼ぐか」に関する取組が重点の取組になると考えている。暮らしやすさは、関西らしい地域生活圏を形成することが大事である。どう稼ぐかは、特徴・強みに大阪・関西万博のレガシーが記載されている。万博で披露される技術やサービスは関西の強みとなり、成長産業となり得る。中間とりまとめ以降、本計画にしっかり位置付けていただければと思う。
- これからはポスト万博であり、レガシーの話が出てくる。レガシーの定義を一度整理しておく必要があると感じている。万博レガシーに関する委員会を設置し、有識者にご講演いただいたことがある。委員会メンバーに強く印象づけられたのは、「万博を開催し、結果的に残ったものはレガシーではない。万博を契機に10年、20年後を目指して、つくっていくものがレガシーである」というコメントであった。レガシーをどのように定義し、つくるかについての正解はないが、各団体・組織が、その観点で検討し、それぞれの「レガシー」を共有していくと、レガシーを巡る議論を深めていけるのではないかと思った。
- 今後想定される関西の動き、国の動きを踏まえて、関西は何をしなければならないかを追いかけていく必要がある。そのひとつが万博のレガシーであり、防災の話でもある。国でも南海トラフへの対応の検討も進んでいくと聞いているため、関西として何をしなければならないかを考えていただきたい。個別のプロジェクトでも北陸新幹線の動きもあり、現状を踏まえた計画への盛り込み方を考えていただきたい。
- 防災計画は網羅性が重要である。防災は、国でも動きが早くなってきていると感じている。特に被災後の避難所の環境改善が論点となってきており、大きな前進だと思う。避難所に迅速に物資を搬入するためにも、交通・物流のネットワークの強靱化を平時のうちに検討・実行しておく必要がある。
- 防災の関わりは大事であり、しっかり本編の中で書き込んでいただければと思う。十分に考えられていると思うが、重要な点はより確実・丁寧に示していただければと思う。
- 関西広域連合にも広域計画があり、第6期計画の策定に向けて動き出している。今回とりまとめているこの計画と、関西広域連合の計画は関西ということで密接に関連する。今後ともお互いに意識しながら進められればと思う。
- OKXは良いタイトルである。高い目標を設定することが重要である。

以上